

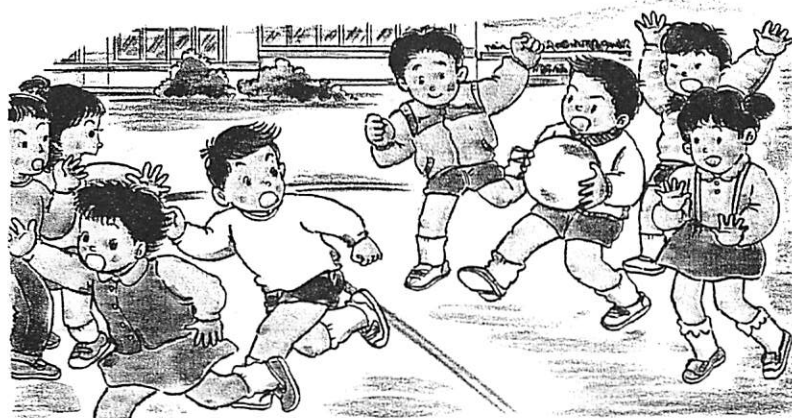
## 14 学校のじまん

わたしは、学校へ いくのが  
大好きです。それは、ともだちが たく  
さん いるからです。

みんなで 学きゆうの うたを うた  
います。

ドッジボールや おにごっこを して  
あそびます。

まい日、とても たのしいです。(ゆりな)

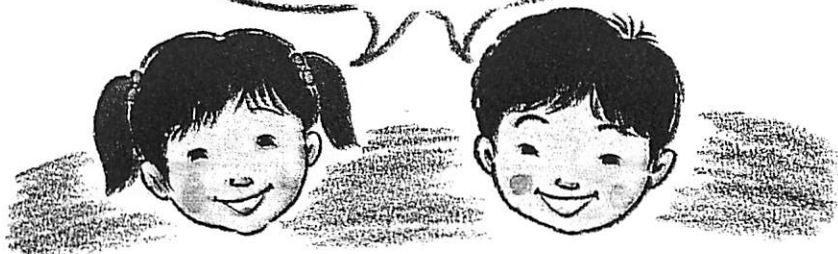
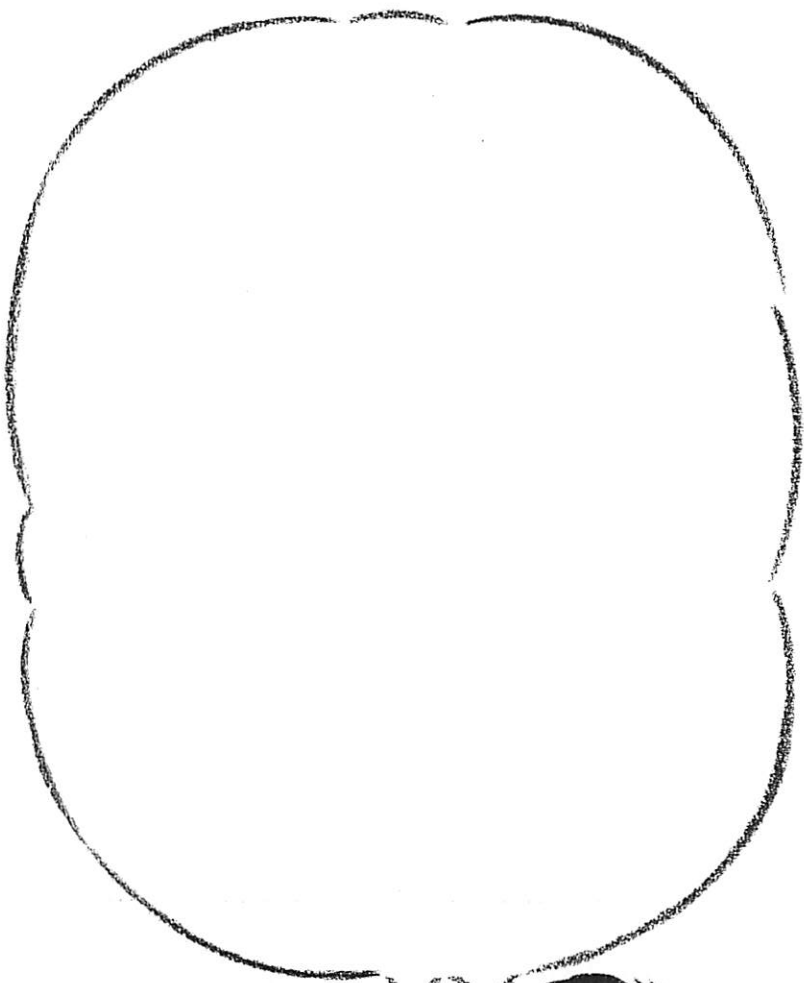


わたしたちの 先生は、とても  
やさしくて あかるい 先生です。  
先生は、べんきようじかんに よく  
わかるように おしえて くれます。  
おもしろい 本を よんで くれ  
たり、いっしょに あそんで くれ  
たり します。

そんな 先生が 大好きです。

(けいこ)





わたしたちの 学校の じまん

ぼくたちの 学校には、のうえん  
が あります。

そこで まいとし さつまいもを  
つくります。

ことしは、おにいさんや おねえ  
さんに なえの うえかたを おし  
えて もらいました。

どんな おいもが とれるか、い  
まから たのしみです。(こうじ)



# 14 学校のじまん

4-(3) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。(愛校心)

## ①主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

学校が好きで、自慢したいことは、いろいろあると思うが、自分の学校の校舎がりっぱだとか施設が整っているとか運動場が広いなどの理由で自慢したがる子が多い。しかし、それだけでは愛校心をもっていい難しい。特に低学年では、自分たちのために一生懸命つくってくださる先生を敬愛し、優しい上級生に親しみをもち、たくさん友達との学校生活を楽しむ心を育てることが大切である。楽しい学校生活を送ることが愛校心を育てるもことになる。と考える。

〈子どもの実態について〉

どの子も学校が好きで、毎日元気よく登校している。また学校生活にも慣れ、行動も活発化してきている。しかし、自分たちの学校、自分たちの学級という集団意識、仲間意識はまだあまり見られない。そこで、毎日学校生活が楽しく過ごせるのは、たくさん友達や親切にしてくれる上級生がいて、さらには、すばらしい先

生がいてくれるおかげであると気付かせ、学校生活を楽しくもうとする心を育てていきたい。

〈資料について〉

本資料は三人の子どもによる学校の自慢によって構成されている。

1. 友達がいるから大好き。
2. やさしくて、明るい先生がいるので学校が楽しい。
3. やさしい上級生に親しく教えてもらえるから楽しい。

ややもすると、施設・設備の自慢になりがちな子どもたちにとって、この三人の自慢は、本当のすばらしさである人と人とのつながりや温かい心の通い合いに気付かせていくのに適した資料である。自分たちの学校や学級ではどうだろうかと自分たちの生活と重ね合わせながら、学校の楽しさを人々とのかかわりの中でとらえさせたい。

## ②ねらい

先生を敬愛し、友達や上級生と仲よくして、学校生活を楽しくもうとする心情を育てる。

学校 だいすき



うれしい

・おにいさんや  
おねえさんがいる。  
なんでも おしえて  
くれる。  
いっしょに あそんで  
くれる。  
しごとを てつだって  
くれる。  
しんせつに してく  
れる。



だいすき

・先生がいる。  
やさしくて あかるい。  
よく わかるように おし  
えてくれる。  
あそんでくれる。  
本をよんでくれる。



たのしい

・ともだちが いる。  
いっしょに うたう。  
いろいろな あそびを す  
る。  
きゅうしよくも いっしょ。  
本を よむのもいっしょ。

学校の じまん

□板書

## ③展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 自分たちの学校の好きなところについて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校が楽しいなあ、好きだなあと思うところはどんなことでしょう。</li> </ul> <p>(2) 資料「学校のじまん」を読んで話し合う。</p> <p>① ゆりなさんは、友達がいるとどんな気持ちになるので、学校が大好きなのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで歌を歌うと楽しいから。</li> <li>・友達がいると、いろいろな遊びができてとても楽しくなるから。</li> <li>・友達がいると、いろいろなお話ができてとても楽しいから。</li> </ul> <p>② けいこさんは、先生のことをどう思っているから学校へ行くのが楽しみなのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生のいる学校へ、早く行きたいな。</li> <li>・今日は、先生とどんな勉強をするのかな。</li> <li>・先生は、今日どんなお話をしてくれるのかな。</li> <li>・先生とどんな遊びをしようかな、またいつ遊んでくれるかな。</li> </ul> <p>③ こうじ君は、上級生のお兄さんやお姉さんのことをどう思っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親切になんでも教えてくれるな。</li> <li>・いつも遊んでくれてありがとう。</li> <li>・お兄さんやお姉さんは、やさしいな。</li> <li>・お兄さんやお姉さんがいろいろな仕事をしてくれるから、とても助かっている。</li> </ul> <p>(3) 自分たちの生活について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ みなさんは何が学校のじまんですか。学校の友達や先生、上級生に対してどんな気持ちをもっていますか。</li> <li>・ほくも友達がいるので学校が楽しみです。</li> <li>・勉強がおもしろいし、学校が楽しい。</li> <li>・お姉さんたちと遊ぶのが楽しみです。</li> </ul> <p>(4) 教師の説話を聞く。</p> <p>校舎は木造でとても古く、机や椅子もガタガタしていたし施設もあまりととのっていなかったけれど、友達がみんな仲良く助けあってとても楽しかったことなど、思い出の話をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校は楽しい、好きだという気持ちを発表し、資料への興味・関心をもつことができるようにする。</li> <li>・ ゆりなさんの気持ちを探らせることで、友達がいるから学校が楽しいという気持ちわいてくるようにする。</li> <li>〔自分たちの体験と重ね合わせ〕 て考えさせるのもよい。</li> <li>・ 先生に対するいろいろな思いを出し合うことにより、先生を敬愛する気持ちを引き出すようにする。</li> <li>・ 上級生がいろいろと世話をしてくれるからこそ、学校生活が楽しくできるんだということに気付くようにする。</li> <li>・ ゆりなさん、けいこさん、こうじ君と同じような気持ちがある自分にもあることに気づき、価値の内面的自覚を図れるようにする。</li> <li>〔「わたしたちの学校」についてあらかじめ作文等を書いておく〕と自分の学校のよさがよく深く自覚される。</li> <li>・ 教師の思いを話し、学校生活を楽しくもうとする心情が高められるようにする。</li> </ul>